



いちのせき
協働ニュース

2014年10月

vol.3



室根まちづくり
協議会を
紹介します!

室根まちづくり協議会

会長：三浦 幹夫

問い合わせ先

電話：0191-64-3802(室根支所地域振興課)

特徴あるまちづくり

発足して3年目を迎え、地域計画策定に向けて部会を開催し、我が室根をどんなまちに行きたいかを話し合っています。

話し合いでは、昨年度実施した住民アンケートを基に進めていますが、はじめに室根の将来像たる柱をしっかりと考えてから、詳細を話し合っていくことになりました。

部会では、人口・世帯数の把握や将来に残したい室根の資源、室根の産業の現状と課題等を話し合い、そこから室根地域に必要な物、改善すべきこと等話し合いが進められ、基本方針や主な施策等を策定する予定です。

また、今年から、各自治会から推薦された若者23名が、毎月1回会議を開き仲間づくりや室根の現状の把握をはじめ、住民アンケート結果に着目して話し合いを行っています。

2月には、若者たち自身が自分たちで考えまとめ上げた事業等を、室根まちづくり協議会へプレゼンテーションする予定です。

当協議会でも、今後室根で活躍する若者たちの意見を地域計画に反映して行く方向で協議しており、若者たちからどのような意見等が出てくるか楽しみです。



地域協働推進員の紹介

佐藤紀子地域協働推進員を紹介します。佐藤さんは福島県白河市生まれ、高校まで地元で育ち、大学卒業後東京で会社勤め、平成26年3月に室根に移住、牛の放牧や鹿などに初めて出会い感激、自然の素晴らしさに毎日感動しながら生活しています。

佐藤さんからの一言

地域協働推進員として、地域の方々との出会いを大切にしながら、お役に立てるよう頑張りますので、よろしく願いいたします。



B-1グランプリ初出展の いちのせきハラミ焼なじょったべ隊を支援

当協議会会員の「いちのせきハラミ焼なじょったべ隊(鶏総裁山本郷)」が、10月18・19日の両日、福島県郡山市で行われるB-1グランプリに初出展します。

室根の若者たちが平日はそれぞれの仕事をしながら、休日になると県内外のイベントに出向いて、いちのせきハラミ焼を通じて一関市のPR活動を行っています。

この活動が評価され、今回の全国レベルの大会初出展につながったものと思います。

10月には、激励会を開催、若者の活躍に当協議会は元より、地域の皆さんからも支援の声が上がり地域全体が盛り上がっています。

がんばれ、いちのせきハラミ焼なじょったべ隊!!



各地域の協働の取り組み



花泉地域 ～協働体設立に向けた動き～

問い合わせ先
電話:0191-82-2211
(花泉支所地域振興課)



永井公民館で実施された「一関市地域協働推進計画」説明会

花泉地域の地域協働

花泉地域では地域協働体設立の計画がある全7地区のうち、今年6月、老松地区で『老松みどりの郷協議会』が花泉地域初の地域協働体として設立しました。

他の6地区でも設立に向けて動き出しています。

地域協働推進計画説明会の実施

花泉地域では、8月5日までに全7地区の公民館を会場に市の地域協働推進計画の説明会を実施し、延べ278名の市民が出席しました。

市民からは、特に「公民館の市民センター化」、「市民センターの地域管理」について多くの質問が寄せられました。

地域協働体設立に向けて

油島、涌津、花泉地区では準備会を設立し、協働体設立に向けた話し合いを行っています。金沢地区でも、準備会を設立する予定です。

日形地区は日形まつり実行委員が中心となり協働体設立準備会議を行っています。

永井地区では8月に「永井地域コミュニティ活性化協議会（仮称）設立準備委員会」を設立しました。今後は、いちのせき元気な地域づくり事業とあわせ、設立に向けた話し合いや情報収集等を行う予定です。

今後の展望

地域協働体をまだ設立していない6地区では、準備会等で、地域の特色を活かしながら、どのように地域づくりを進めていくか検討することになっています。

既に地域協働体が設立している老松地区では地域協働推進員を配置し、本格的に地域づくり計画の作成を行っていく予定です。

各地域の協働の取り組み



結いネット そげい (大東町曾慶地区)

会長：足利 徳夫

問い合わせ先
電話:0191-72-4073
(大東支所地域振興課)

『結いネット そげい』発足!

大東地域としては浜民振興会に次いで2番目となる地域協働体『結いネット そげい』が7月24日に設立されました。

名前の由来でもある「ゆいっこ」の心で支え合いふれ合う地域をつくるため、さまざまな課題についてみんなで話し合い、解決に向けた取り組みを進め「住んでよかった、これからも住み続けたいふるさと、私たちの曾慶」の実現を目指しています。

みんなが主役、みんなで話し合い

『結いネット そげい』は、曾慶地区に居住する全員で構成されています。

総会は代議員制を採用、理事会は曾慶保育園父母の会、大東小学校PTA、大東中学校PTAから選出された理事、各自治会から選出された40～50代の男女それぞれ1人の理事、各種団体長等の理事で構成され、多くの地域住民が話し合いを重ねながら地域課題を把握し、地域づくりを推進していきます。

地域づくり計画の策定

今年度は、小学5年生から中学3年生までを対象とした子どもアンケートと高校生以上を対象とした一般アンケートを実施します。

また、地域づくりの先進地視察研修などを行い「曾慶地域づくり計画」の策定を目指しています。



今年7月24日に開催された設立総会

各地域の協働の取り組み



小梨自治振興協議会(千厩町小梨・清田地区)

会長：藤本 薫

問い合わせ先
電話:0191-52-2496
(小梨公民館)



おらほの明日を考える会

小梨自治振興協議会は

小梨・清田地域内における自治会、団体等の組織相互の連絡調整を図るとともに地域住民らが話し合い実践し地域の振興発展を目的に、平成4年6月に結成され、昨年度、地域協働体として登録されました。

どんな事業をやっているの？

●昨年まで

地域協働に関するワークショップを開催しました。以前は参加者の対象を役員だけとしていましたが、今回は子供会や育成会まで拡大した「おらほの明日を考える会」と銘打ったワークショップを開催しました。参加した子供達の意見を聞くと、地域のよいところを理解し愛着を持っており、しっかりと自分たちの地域を見ていることに気付かされました。

また、千厩地区まちづくり協議会主催の講演会や視察研修への参加、地域づくり講演会を開催して先進地の事例を積極的に学び、当協議会の活動に活かしています。

●今年度は

昨年度のワークショップや研修等について評価・検証を行ったところ、現在の構成団体では若い世代の意見や地域課題等をまとめる体制には不十分であるため、小梨地区各種団体等会議を開催して構成団体の追加加入を呼びかけ組織の強化に努めます。

そして、小梨地区が地域づくりを進める上で柱となる目的を定めるとともに、組織の再編を図りながら、みんなで参加する協働によるまちづくりを進めることにしています。

市役所各課の協働の取り組み



わたしたちの一関の未来づくり ワークショップを開催しました。

問い合わせ先
電話:0191-21-8641
(本庁企画調整課)



さまざまな夢や考えが出されたワークショップ

一関市総合計画とは

市が目指すまちづくりの方向性を定めるものであり、市の行財政運営の指針とするものです。

現在、平成28年度から37年度までを期間とする総合計画の策定を進めています。

次期総合計画の基本構想の将来像と基本的な考え方について、市民で話し合うため、市総合計画審議会と市の主催により、8月9日から12日、「わたしたちの一関の未来づくり」ワークショップを一関・大東・千厩の3会場で開催しました。

ワークショップは各会場でそれぞれ2日間開かれ、地域協働体、自治会、各種団体からの推薦者、公募や高校生など延べ270人が参加。初日は一関の今とこれからについて意見を出し合い、2日目は基本構想に入れたいキーワードやこんなまちを目指したいというキャッチフレーズについて意見をまとめました。

ワークショップで出された意見は、審議会で検討され、基本構想の素案を作成することとしており、10月のタウンミーティングでワークショップ参加者に報告し、意見をいただく予定です。

●基本構想案のタウンミーティングを開催します。

期 日	時 間	場 所	対象者
10月18日 (土)	9:30~11:30	千厩支所	ワーク ショップ 参加者
	13:00~15:00	東山地域交流センター	
	16:00~18:00	一関市役所	
10月25日 (土)	14:00~16:00	千厩支所	どなたでも
	18:00~20:00	一関公民館	



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信によりアイデアと出会いの機会を創ります

いちのせき市民活動センターは、平成20年に市民活動の支援拠点として開設され、市民活動団体や地域コミュニティ、“地域のために何かしたい”という皆さんの活動を支援しています。今年度の協働ニュースでは、日ごろ、各地域でお伝えしている地域づくりに関する情報をお届けします。

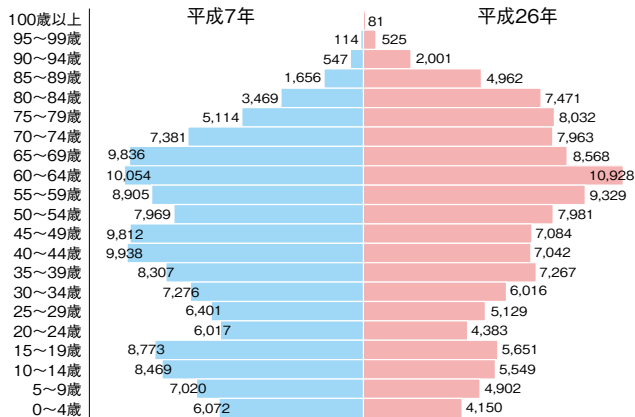
今号では、地域づくりの背景について、ほんの少しだけ。

なぜ今、地域づくりなのか？

最近、地域づくり、地域活性化、協働のまちづくりという言葉を見たり聴いたりすることが多くなりました。多くの市民のみなさんには、地域づくりは、今現在、普通にやっているし、今さら何を言っているんだと感じる方も多いことでしょう。もちろん、その通りです。これまでの地域活動は、このまま継続していただいで構いません。しかし、今は、昔とちょっと違うということ、みなさんと共有したいと思います。

ここに一関市の人口ピラミッドを用意しました。平成7年と平成26年の一関の人口動態を比較してみることができます。

さて、みなさん、違いに気づかれましたか？



平成7年のグラフでは、10代から60代までの人口が多いのに対して、平成26年は、60代以上の方が多くなっています。また、子どもたちの数が少ないことが見てとれます。これが少子高齢化です。

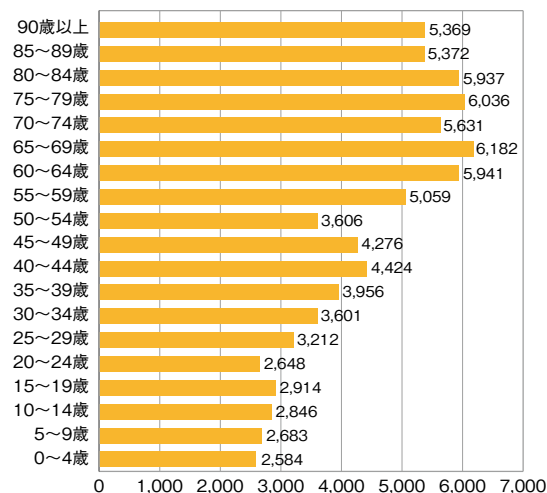
将来の一関の人口～肩車の時代へ～

次に、将来の一関の人口について考えてみます。

	平成26年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	減少率
総人口	125,014	120,912	112,705	104,566	96,789	89,408	82,277	▲35.54

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

平成52年の人口ピラミッド



将来の一関市の人口は減少傾向にあり、26年後の平成52年には、今の人口から42,737人少ない82,277人（減少率35%）になると予測されています。人口構成も、高齢者数が労働人口の倍になるという状況です。現在、2人で1人を支える時代から、これからは1人で1人を支える時代になるということです。分かりやすくイメージしてもらうために、こんな風に例えてみます。たくさんの方がいた時代は御神輿の時代でした。しかし、今は騎馬戦の時代、これからは、肩車の時代に……。

これは予測ですので、絶対こうなるというものではありません。しかし、減ることは、避けては通れない状況であることは受け止めておく必要があります。

今なぜ地域づくりなのか？

今と昔の違いは、人口構成バランスが崩れていることです。

昔は人が多く、何かやろうとしても、やれる人が多くいました。ゆえに、私たちの先輩たちは、地域において沢山の宝を残してくれているのですが、それを、昔と同じようにやろうとしても、人が少ないためにやれない現実があるのです。

少子高齢化は避けて通れません。これからの地域づくりは、何か新しいことをやるのではなく（それも大事ですが）、その現実と向き合いながら、人が少なくなっても地域を運営できるように、地域にある役職や行事などを見直したり、時代の変化に伴い、地域の仕組みを再構築する必要があります。

地域ひと
そだて
そだて

地域や団体で事務局をやる人がいない……

事務局をやる人材が不足しているという意見を聞きます。

事務局って、誰でもやれるようで、意外と難しい仕事です。でも、なぜ、事務局をやる人がいないのか？

それは、事務局のお仕事について知らないからだだと思います。

いちのせき市民活動センターでは、事務局さんに役立つ講座を開催しています。

12月6日（土）開講！地域づくりハンドブックマスター講座（後期）

①地域づくりとは②話し合いの仕方③事業の進め方④情報発信のススメ
全4回シリーズ講座となります。

会場：いちのせき市民活動センター（一関市大町4-29 なのはなプラザ4階）

TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415 <http://www.center-i.org/>

